

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 「物語を読んで紹介しよう」

教材名 「モチモチの木」

2 単元の目標

- ・場面ごとの登場人物の行動や会話から、人物の気持ちや性格をとらえて読むことができる。
- ・紹介文を発表し合い、意見や感想を伝え合うことができる。
- ・興味のある本を選んで読むことができる。
- ・物語の紹介文を書くために必要な事柄を考えて書くことができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○登場人物に着目して同じ作者の作品を読むことを楽しもうとしている。	○会話や心情表現、行動を表す文などから人柄が分かることを知り、着目して読んでいる。 ○登場人物について考えたことを交流し、一人一人の感じ方の違いに気づいている。 ○同じ作者の作品から興味のある本を選んで読んでいる。	○言葉に登場人物の心情が表れていることに気付く。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

端的な小見出しのついた五つの場面、はっきりとした個性をもった魅力的な登場人物、緊張感のあるクライマックス、共感性の高い主人公の変容等、「場面ごとの登場人物の行動や会話から、人物の気持ちや性格を考える。」という指導事項に適した教材である。児童は、ここで初めて「語り手」という言葉と出会う。また、3年生のまとめ学習として既習事項を想起し、学び方を活用して自分の力で読み進める学習に挑戦させたい。そのためには、しっかりした一人読みの時間を確保したい。そのうえで、自分の解釈を友達と交流し、その共通点や相違点に気付く力を育てたい。

(2) 教材文について

「豆太」という人物についての読み取りや話し合いを通して、一人の人間をひと言で言い表すことは難しいことに気付かせたい。また、齋藤作品には、自分のできることをひたすら一生懸命に行う主人公が多く登場する。端から見ると、それはいじらしいほどの自己犠牲であるが、本人にはその行為からくる気負いは全くない。見返りを求めず懸命に生きる姿が児童の心を揺さぶるであろう。

5 研究主題に迫るために（学習活動の工夫）

- (1) 4つの思考の型を取り入れた言語活動
- (2) 「物語文を読む10の観点」の活用
- (3) 音読の工夫

- ・三読法における読みの機会を設定した。あらすじをつかむための読み、思考を深めるための読み、学習によって深まった理解を表現するための読みの機会を設定した。

(4) 板書の工夫・学習環境の工夫

- ・ 学習の振り返りができるように、模造紙に書いて教室に掲示し、以前の学習内容を振り返ることができるようにする。

(5) 発問の工夫

- ・ 児童が叙述に即して想像できるように視点を絞って発問する。

(6) ワークシートの工夫

- ・ 一単位時間ごとにワークシートを用意し、考える場面を限定することで、児童が課題に取り組みやすくなるようにする。また、サイドラインを引くための本文と自分の考えを書き込むスペースを一体化させることで、叙述に基づいて自分の考えがもてるようにする。

学習指導計画（全 11 時間）

次	時	ねらい	主な学習活動と 4 つの思考	評価規準・方法
1	1	全文を読んで初発の感想を交流する。	・ 題名や挿絵から話の内容や人物像を想像したり、範読を聞いたりして、心に残った場面の感想を書き発表する。	【関】自分の感想をもち発表したり、友達の感想を聞いたりしている。（発表・ワークシート）
	2	物語のあらすじをつかむ。	物語のあらすじをとらえよう ・ 10 の観点に基づき、物語の構成を捉える。	【読】物語のあらすじをつかみ、ワークシートにまとめている。（ワークシート）
2	3	「おくびょう豆太」 豆太のおくびょうな様子としさまの豆太に対する思いを読み取ることができる。	豆太としさまの人柄を読み取ろう（第一課題） ・ 豆太としさまの人柄がわかるところにサイドラインを引き、考えたことやしさまの豆太に対する気持ちを書く。 【類推】 「全く～なやつはない。」の「まったく」という語り方や 「それなのに～こんなにおくびょうなんだろうか。」から 豆太の人柄をとらえよう（第二課題） ・ 「全く」や「それなのに」はどのように使われるのかを考え、豆太の人柄を捉える。【類推】 言葉の力「全く」「それなのに」	【読】会話・行動・表情を表す言葉や情景描写から豆太の性格としさまの人柄、気持ちを読み取ることができる。（発表・ワークシート）
	4	・ 「やい、木い」 豆太のこわがりな面と、虚勢を張る面をモチモチの木の見え方から読み取ることができる。	昼と夜のモチモチの木に対すると豆太の態度の違いを読み取ろう（第一課題） ・ 昼と夜の豆太の様子が分かるところにサイドラインを引き、考えたことや豆太のモチモチの木に対する気持ちを書く。【比較】 「くせに」という言葉から昼と夜の豆太の行動の違いを比べて整理しよう（第二課題） ・ 「くせに」はどのように使われるのか考え、昼と夜の豆太のモチモチの木に対する気持ちの違いを考える。	【読】豆太の昼と夜の様子の違いに着目して、豆太の気持ちを読み取ることができる。（発表・ワークシート）

	5	・「霜月二十日のばん」 じさまの話を聞いた豆太の気持ちを読み取ることができる。	「山の神様のお祭り」に対するじさまと豆太の気持ちを<u>読み取ろう</u>。(第一課題)【類推・選択】 ・「山の神様のお祭り」に対するじさまと豆太の気持ちが分かるところにサイドラインを引き、 <u>ダッシュの部分の豆太の気持ちを考えよう</u>。(第二課題) ・ダッシュの部分の言葉にならない豆太の気持ちについて考える。【類推】 言葉の力 ダッシュ	【読】じさまと豆太の山の神様に対する気持ちを読み取り、ダッシュの言葉にならない豆太の気持ちについて考えることができる。(発表・ワークシート)
	6 本時	・「豆太は見た」前半 真夜中に目をさました時の豆太の様子や気持ちを読み取ることができる。	じさまの急病に対して助けたいという豆太の気持ちを<u>読み取ろう</u>。(第一課題) ・医者様を呼びに行く豆太の気持ちが分かるところにサイドラインを引き、考えたことや豆太の気持ちを書く。 【類推・選択】 「豆太はなきなき走った。」と「なきなきふもとに医者様へ走った」との違いを考えよう。(第二課題) ・「豆太はなきなき走った」のはなぜか、「なきなきふもとの医者様へ走った」のはなぜか考える。【類推】 言葉の力 霜が足にかみついた(擬人法)	【読】豆太のじさまの急病に対する驚きや恐れ、助けたい気持ちを読み取ることができる。(発表・ワークシート)
	7	・「豆太は見た」後半 はらいが治ったあとのじさまと豆太の気持ちを読み取ることができる。	豆太はなぜ、モチモチの木に灯がついたのを見ることができたのか、見ることができたわけを<u>読み取ろう</u>。(第一課題) ・豆太と医者様にはもちもちの木がどのように見えたのか分かるところにサイドラインを引く。【選択】 豆太は「その後は知らない。」のはなぜか<u>訳を考えよう</u>。(第二課題) ・豆太がじさまを助けることに必死になっている様子を読み取る。言葉の力「かまどにまきをくべたり、湯をわかしたりなんたり～」	【読】会話や行動に着目し、登場人物の気持ちや人柄をとらえながら読んでいる。
	8	・「弱虫でも、やさしけりゃ」 豆太らしさやじさまらしさを読み取ることができる。	じさまの言う「やさしさ」と「やらなきやならねえこと」は<u>どんなことか考えよう</u>。(第一課題) ・じさまの言う「やさしさ」と「やらなきやならねえこと」が豆太の行動とどのように結びついているか考える。 【類推】 「弱虫でもやさしけりゃ」の後には<u>どんな言葉が続くか考えよう</u>。(第二課題) ・「弱虫でもやさしけりゃ」に続く言葉を考えることで、じさまが豆太に伝えたかったことを考える。【類推】	【読】じさまの言葉の意味について自分の考えを読み深めている。(発言・ワークシート)
3	9 10 11	同じ作者の本を読んで、心に残る登場人物を決めてブックトークの発表会を開く。	齋藤隆介さんの作品の中から、お気に入りの本を選んで、 <u>登場人物の人柄を考え、紹介しよう</u> ・例文から登場人物を中心とした本の紹介文の書き方を知る。 ・同じ本を選んだ仲間とグループで読書会を開き、感想を	【言】齋藤隆介の他の作品を読んでブックトークをすることに興味をもつ。(発表)

			交流する。 ・それぞれのグループでの読書会について、全体で感想を交流し、単元全体をふり返り、学習感想を書く。	【書】 物語の紹介文を書くために必要な事柄を考えて書くことができる。(ワークシート)
--	--	--	---	---

7 本時の指導（6／11時）

（１） 本時の目標

- ・霜が足にかみついても、じさまを助けたい一心で医者さまを呼びに走る豆太の様子と気持ちを読み取る。

（２） 展開

導入	1 前時の学習を振り返る。	○じさまから、モチモチの木に灯がともる話を聞いたときの豆太の気持ちを確認する。	
	2 本時の課題を知る。	じさまの急病に対して助けたいという豆太の気持ちを読み取ろう。(第一課題)	
展開	3 学習場面を音読する。(一人読み)		
	4 医者様を呼びに行く豆太の気持ちが分かるところにサイドラインを引き、考えたことや豆太の気持ちを書く。		
	「豆太は、なきなき走った。」と「なきなきふもとの医者さまへ走った。」との違いを考えよう。(第二課題)		
	5 「豆太はなきなき走った」のはなぜか、「なきなきふもとの医者様へ走った」のはなぜか考える。	○2つの表現の違いに着目させる。 ○叙述を基に想像させ、ワークシートに書かせてからペアで交流させる。	
開	6 「霜が足にかみつく」はどんな様子か考える。 〈言葉の力〉 人間でないものを人間にたとえる表現→擬人法	○霜をはだして踏むイメージがわくように写真を提示する。 ○豆太がどんな状況で走っていたのか確認する。	【読】 痛い思いをしてまでもじさまを助けたかった豆太の気持ちを読み取る(ワークシート・発言)
	7 医者様を呼びにいく時の豆太の気持ちを考える。		
まとめ	8 本時の学習を振り返る。 ・痛い思いをしてまでもじさまを助けたかった豆太の気持ちを確認する。 ・本時の学習を振り返りながら学習場面を音読する。		
	9 次時のめあてをもつ。	○じさまを助けたい一心で医者様を呼びに走った豆太の気持ちを想像しながら音読させる。	